

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	こども発達支援センターほけっとクラブあしかが		
○保護者評価実施期間	令和6年 9月 17日		～ 令和6年 11月 30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	30人	(回答者数) 21人
○従業者評価実施期間	令和6年 9月 17日		～ 令和6年 11月 30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)
○訪問先施設評価実施期間	令和6年 9月 17日		～ 令和6年 11月 30日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	20人	(回答者数) 20人
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 3月 7日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	対象児のほとんどがほけっとクラブを利用しているため、ほけっとクラブでの様子との比較ができる。	ほけっとクラブの指導員から訪問支援児の様子を伺ったり、療育内容を聞き出したりしている。	保育所等での課題を解決するために、指導員に様子を伝え、訪問支援児に必要な療育を行っていく。適宜、療育の指導、助言を行っていく。
2	訪問支援員が10年以上児童発達支援に携わっているため、支援の方法や手立てについての引き出しが多い。	こどもに応じて分析を行い、その子にとって何が強みになるかを考え、助言を行っている。	得意なこと、苦手なこと、どのような手立てが有効だったかを記録し、支援方法や手立ての引き出しをさらに充実させていく。
3	相談支援事業所が併設されているため、利用者の情報提供がスムーズに行われている。	訪問前に相談支援専門員から情報を伺う。また、訪問後は相談支援事業所に記録を提出している。	今後も相談支援事業所との連携を深め、引き続き情報の共有化を図っていく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	当事業所の利用者以外からの訪問希望があった場合、対応が困難である。	限られた人員のため、当事業所外からの希望は受け付けていない。	訪問先において、訪問支援児以外の子の対応を求められた場合、答えられる範囲で支援方法を伝えたり、必要に応じて当事業所の紹介を行ったりしている。
2	訪問支援員が1人のため、業務の改善が難しい。	1人で行っている業務のため、他者のチェックが入りにくい状況である。	児童発達支援管理責任者と連携、相談しながら業務の改善や精査を行っていく。
3	訪問支援の頻度を増やすことができない。	訪問先が20カ所あるため、訪問頻度はおよそ2か月に1回となっている。	訪問先での様子から、必要に応じて訪問回数を増やしたり減らしたりするなどの処置をしていく。